

## 日本が誇る縄文文化

縄文文化の始まりは今から約1万5千年前に遡ります。急激な温暖化により、日本列島では、ドングリ類やクリ・クルミが実る豊かな落葉広葉樹の森が広がり、魚介類が豊富に生育できる地形や環境が形成されるなど、世界的にも稀な生物多様性に富んだ自然が育まれました。

縄文文化は、この豊かな自然と共生し、気候変動や自然環境の変化にも巧みに適応しながら**1万年以上もの長期にわたり持続可能な社会を形成した日本特有の先史文化**です。世界に先駆けて土器が出現するとともに安定して暮らせるムラも形成されました。

本格的な農耕と牧畜を選択することなく、**狩猟・採集・漁労を生業の基盤として定住を達成**し、協調的な社会を作り上げ、長期間継続した縄文文化は、世界の他の地域における新石器文化とは全く異なるものであり、**人類史にとって極めて重要な文化**です。



縄文ポシェット(重要文化財)  
樹皮を縦横に編んだ網代編みで作られ、中にはクルミが入っていた。  
国内唯一の完形品 [三内丸山遺跡]

## 定住の達成



日本最古級の土器片  
約15,000年前の無文土器。煮炊きのあとがついている。[大平山元遺跡]

自然環境に適応した道具を発明し、狩猟・採集・漁労による生業を営む人々の暮らしは次第に定住へと変化し、**堅穴建物が建ち、やがて生活の拠点であるムラが出現**しました。ムラの中には住居や墓が作られ、地域を代表するような拠点的なムラも現れました。太い柱を使った大型の建物やまつりの場所である盛り土などの施設、大規模な記念物である環状列石(ストーン・サークル)も登場しました。

ムラの周りには防御用の溝や柵などはなく、**温和で協調的な社会**が築られました。また、海や山を越えた**遠方との交流・交易**も活発に行われ、ヒスイやアスファルト、黒曜石が運ばれました。漆器や装身具類も発達し、まつりに使われる土偶もたくさん作られ、人々は**豊かな精神世界**を持っていたことがわかります。

## 自然との共生

縄文文化が営まれた時代、北海道・北東北では**ブナを中心とする落葉広葉樹の森**が広がっていました。生物多様性に恵まれた生態系に適応し、豊富な森林資源や水産資源など多種多様な資源を持続的に利用することで縄文文化は1万年以上も長きにわたり継続・発展しました。

ムラのまわりには、クリやクルミ、ウルシなどの多くの有用植物が栽培された「**縄文里山**」と呼ばれる人為的生態系も成立し、中でもクリは管理・栽培されていた可能性が高く、食料や木材として利用されました。

また、世界規模の気候変動や環境の変化、大規模な火山活動や地震・津波などの自然災害もありましたが、人々は、このような環境にも巧みに適応し克服してきました。

縄文文化は、**自然に大きな負荷を与えず持続可能な資源利用**により生業を維持し、環境に巧みに適応したことで長期間継続しました。それを支えたのは自然との共生であり、後の日本人の自然観や世界観、価値観などの形成にも大きな影響を与え、日本文化の基層となりました。



出土した種子  
(上)クリ  
(下)クルミ  
[三内丸山遺跡]



## 縄文から現代へ

縄文文化は、日本列島で本格的な稲作が始まる弥生文化の成立まで1万年以上続きました。それは、停滞でも未発達でもなく、優れた技術と豊かな精神世界を持った**成熟した社会**でした。

また、縄文人は、現代人の直接の祖先であり、縄文文化の延長上に現代の生活が成り立っていると言っても過言ではありません。

自然の豊かな恵みを暮らしに取り入れてきた知恵と技術、そして自然とともに生き、家族や仲間を大切に思う心により育まれた縄文文化を、現代に生きる私たちが誇りとして受け継ぎ、**未来へ伝えていくことが大切**です。



羽根付き縄文人土器の欠片には頭に羽根飾りをつけた人が描かれている [御所野遺跡]



土版(秋田県指定文化財)  
刺突の数一つずつ増やし、身体の特徴や数を表現している。  
[大湯環状列石] 資料提供: 鹿角市教育委員会